

平成27年度公共事業事後評価(道路事業)

主要地方道

しまだよしだ ふなき
島田吉田線バイパス 船木工区

静岡県交通基盤部 道路局 道路整備課

事業箇所位置図

島田市船木地内

(事後) 一道路-1



(主)島田吉田線バイパス 船木工区

1 対象路線及び事業の位置



(事後) 一道路-2

2 事業の概要及び目的

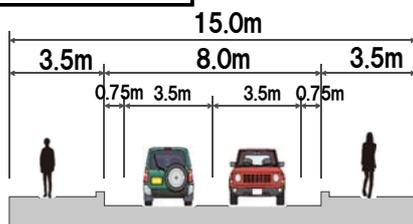
【事業概要】

事業期間：平成18年度～平成22年度
 事業費：13.28億円
 事業延長：1.0km

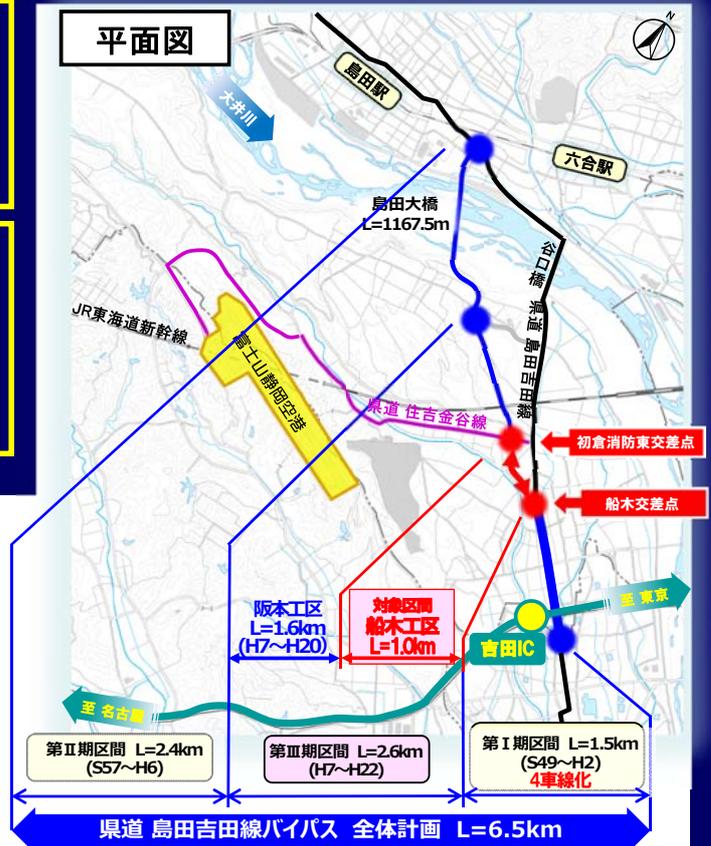
【事業目的】

- ・島田吉田線 現道の慢性的な交通渋滞の緩和
- ・吉田ICから富士山静岡空港や島田市街へのアクセス及び利便性の向上

標準横断面図



平面図



(事後) 一道路-3

3 事業の投資効果（費用対効果の検証）

総費用（C）	15.57億円（現在価値換算）
事業費	15.05億円
維持管理費	0.52億円

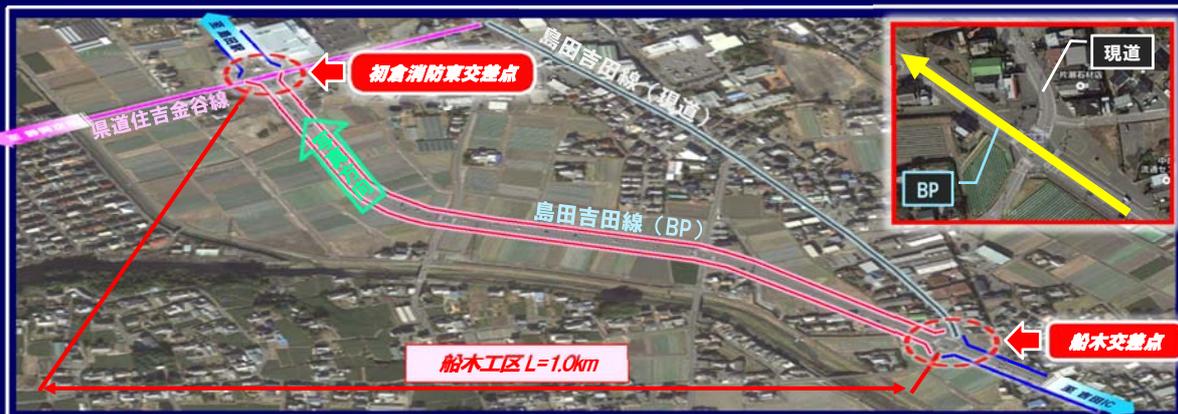
総便益（B）	107.00億円（現在価値換算）
走行時間短縮便益	95.23億円
走行経費減少便益	8.28億円
交通事故減少便益	3.49億円



費用対効果（B / C） 6.87

（事後）一道路-4

4 事業区間の整備状況

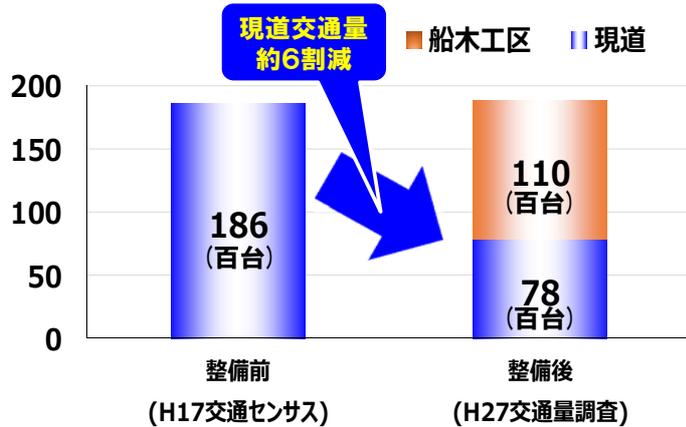


（事後）一道路-5

5 交通の状況（現道からBPへ交通の転換）

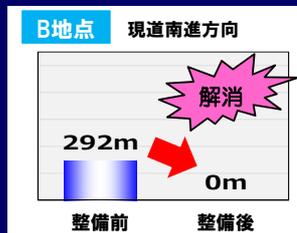
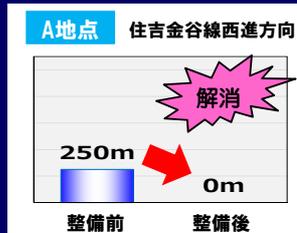


交通量の変化<整備前-整備後>



船木工区の完了に伴い
島田吉田線バイパスへの交通の転換
現道における交通量が約6割削減

6 事業効果（現道の慢性的な交通渋滞の解消）



色尾南交差点付近

<整備前>



<整備後>



地域の課題となっている慢性的な交通渋滞が全地点で解消

6 事業効果(空港へのアクセスの向上)

＜整備前後の吉田ICから富士山静岡空港へのアクセス時間＞



観光・ビジネスの窓口となる空港⇄東名ICのアクセスが向上した

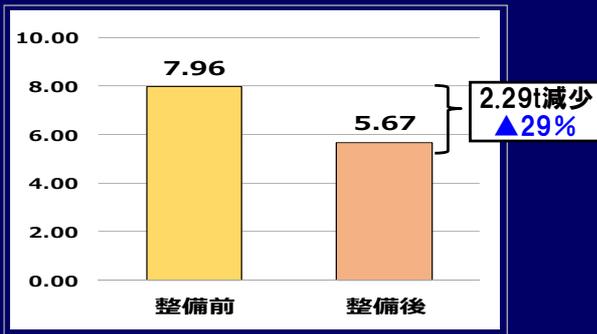
6 事業効果(防災力・地域連携の強化)



・島田吉田線BPが全線開通したことによる緊急輸送路の南北軸の強化及び、東名高速道路へのアクセス機能向上

7 事業実施による環境の変化

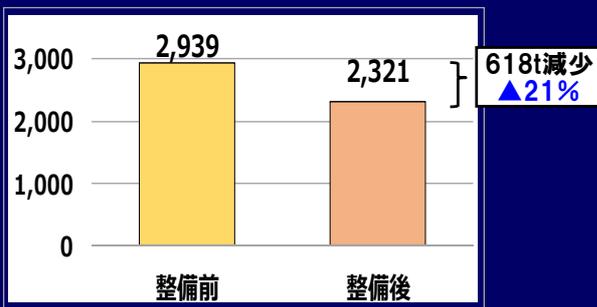
＜NOx排出削減量＞
(t-NOx/年)



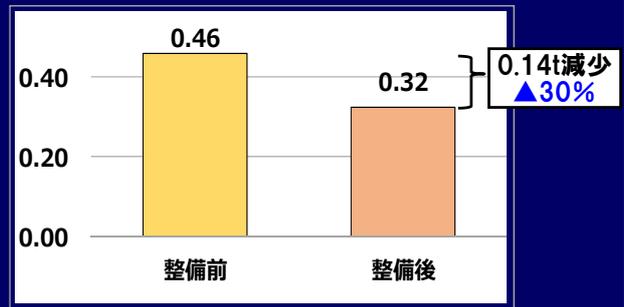
＜現在の改善された交通環境＞



＜CO2排出削減量＞
(t-CO2/年)

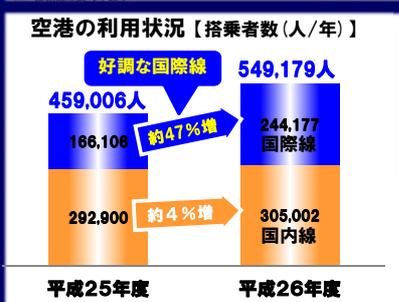


＜SPM排出削減量＞
(t-CO2/年)



(事後) 一道路-10

8 事業を巡る社会経済情勢等の変化



国際線9路線に
中国人客大幅増
静岡新聞 (H27.5.1)

富士山の世界遺産登録
【平成25年6月22日】

清水港 東名高速道路
島田吉田BP
吉田IC
御前崎港

写真:静岡県HP

(事後) 一道路-11

空港運行時間の延長(早期実現を目指す)、旅客ターミナルビルの増改築(～H29)
藤枝駅～空港のシャトルバスの試験運行、浜松地区での乗合タクシーの運行

今後も空港と世界遺産・富士山をはじめとした各観光地への
アクセス道路として利用の増加が予想される

9 対応方針(案)

本事業により、

- ・現道を含めて交通円滑化が図られた。
- ・広域観光・交流の促進が図られた。
- ・防災力・地域連携の強化が図られた。
- ・B/Cが「6.87」と「1」を上回っている。
- ・「富士山静岡空港および東名高速道路・吉田ICから観光地へのアクセス道路」として整備効果が十分発現している。



事業効果は十分に発現しており、改善措置の必要はない

8 対応方針(案)

●今後の課題・対応

本路線周辺の道路整備を引続き着実に進め、道路ネットワーク強化を図る。

●同種事業への反映等

本事業のような空港、高速道路ICなどの交通拠点が近傍に存在する道路整備には、B/Cの他、「拠点へのアクセス性の向上」やそれに伴う「観光客の増加への期待」など、広域的な効果が存在する。同種事業についても、これらの効果を把握しながら広域的な道路整備に取り組んでいく。